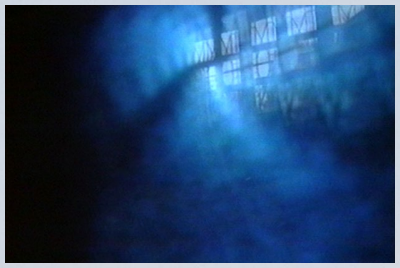
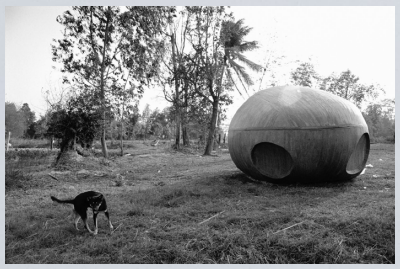
このたび、東京都写真美術館は、総合開館20周年を記念して、国際的に活躍する、
タイ出身の映像作家、映画監督・アピチャッポン・ウィーラセタクンの個展を開催します。
アピチャッポンは、タイの東北地方を舞台に、
伝説や民話、個人的な森の記憶や夢などの題材から、
静謐かつ叙情的な映像作品を制作し続けてきました。
アピチャッポンの作品は、写真や実験映像、ヴィデオ、
インスタレーション、長編映画など多岐にわたる方法で、
淡々とした日常のなかから人間の深淵を浮かび上がらせていく一方で、
タイの現代社会に関わる移民や格差、政治などの社会問題にも密接に関わっています。
本展覧会では、アピチャッポン作品の重要な要素でもある、
目に見えない亡霊=Ghostをキーワードに、
これまで直接的に言及されることが少なかった社会的、政治的側面に焦点をあてます。
アピチャッポンが育ったタイ東北部イサーン地方は、カンボジアとラオスの国境に位置し、
常に国軍からの差別や虐殺の長い歴史をもってきました。
かつて共産主義者の拠点と疑われ、罪のない農民たちの大殺戮が行われた
ナブア村の歴史を10代の少年たちを通して考察する「プリミティブ」プロジェクトでは、
現代の少年たちと過去の亡霊が交差する《Ghost Teen》(2009)や、
長編映画《ブンミおじさんの森》(2010)などの作品を生み出しました。
本展では同時に、映像本来がもつ美学的諸相を検証していくことで、
アピチャッポン作品の魅力を当館の映像コレクション作品を中心に、ご紹介していきます。
カンヌ国際映画祭「ある視点部門」で発表された長編映画《光りの墓》(2015)にはじまり、
パフォーマンス《Fever Room》(2015)の公演にいたるまで、
近年ますます領域横断的にその活動を拡張し続ける
アピチャッポンの映像世界をぜひご堪能ください。

《The Fire》2009／インクジェット・プリント


《Windows》1999／シングルチャンネル・ヴィデオ

《Ashes》2012／シングルチャンネル・ヴィデオ


《Spaceship with Dog, Nabua, 2008》
2013／発色現像方式印画

アピチャッポン・ウィーラセタクン
APICHATPONG WEERASETHAKUL

1970年タイ・バンコク生まれ、同国チェンマイ在住。コンケーン大学で建築を学び、
母国で建築士を務めた後、シカゴ美術館付属シカゴ美術学校で映画制作を学ぶ。
1999年、プロダクション「Kick the Machine Films」を設立。
既存の映画システムに属さず、ドキュメンタリーとフィクションを往来する作品を多数発表。
長編映画《ブンミおじさんの森》で2010年カンヌ国際映画祭パルムドール(最高賞)受賞。
映画監督として活躍する一方、1998年以降、現代美術作家として
映像インスタレーションを中心に旺盛な活動を行っている。

《Ghost Teen》2009／インクジェット・プリント